

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 富野 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語、算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

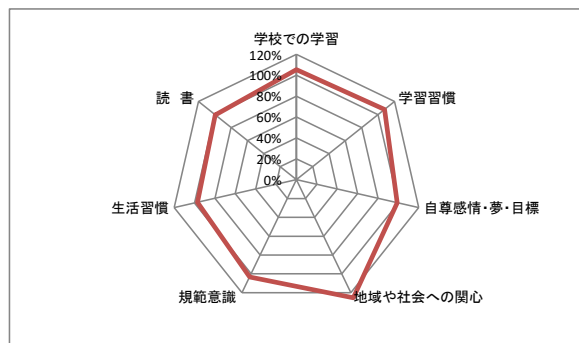
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	- 全体的に全国平均正答率を下回っているが、話や文章中の語句の正しい使い方や主語と述語の関係をとらえる問題については、全国平均を上回るか同等であった。 - 漢字の書きについての問題や、文章を書く問題は正答率が低かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	文章内で使われている語句と同様の使い方を答える問題について、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	文章構成をとらえて主旨を把握したり、学年配当の漢字を正しく答えたりする問題について、正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	- 全国平均正答率を下回っているが、選択式の問題は全体的に正答率が高かった。 - グラフを読んで適切な数量を解答する問題について、正答率が高かった。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取る問題について、正答率が高かった。	下回っている
	努力が必要な問題	図形の面積の求め方を記述したり、速さと道のりを基に時間を求める式に表したりする問題について正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・テレビゲームの使用時間が1時間未満の児童の割合は全国より5ポイント多かったが、「デジタル機器使用の家族との約束を守っているか」では7ポイント低かった。ネットリテラシー教育の充実がより必要である。 ・「いじめはどんな理由があってもいけないか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」では100%が肯定的回答をした。 ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えるか」では全国より20ポイント高く肯定的回答をしたが、「夢や目標をもっているか」では3ポイント低かった。将来の夢や希望をもち、実現させるための具体的な目標設定などキャリア教育の充実が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ◎学力向上に関する職員研修の定期的な実施
- ◎学力向上のための特設時間の実施や指導方法の工夫
- ◎あらゆる学習活動で根拠や理由などをもとに、条件に即して適切に書く活動を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習(宿題)のスタンダード化
- ◎全国学力・学習状況調査の結果と課題や取組の保護者への周知(学校だより、学校HP等)
- ◎児童の実態に応じた適切な学習課題を設定することにより、継続的な家庭学習習慣が整えられるようにする。